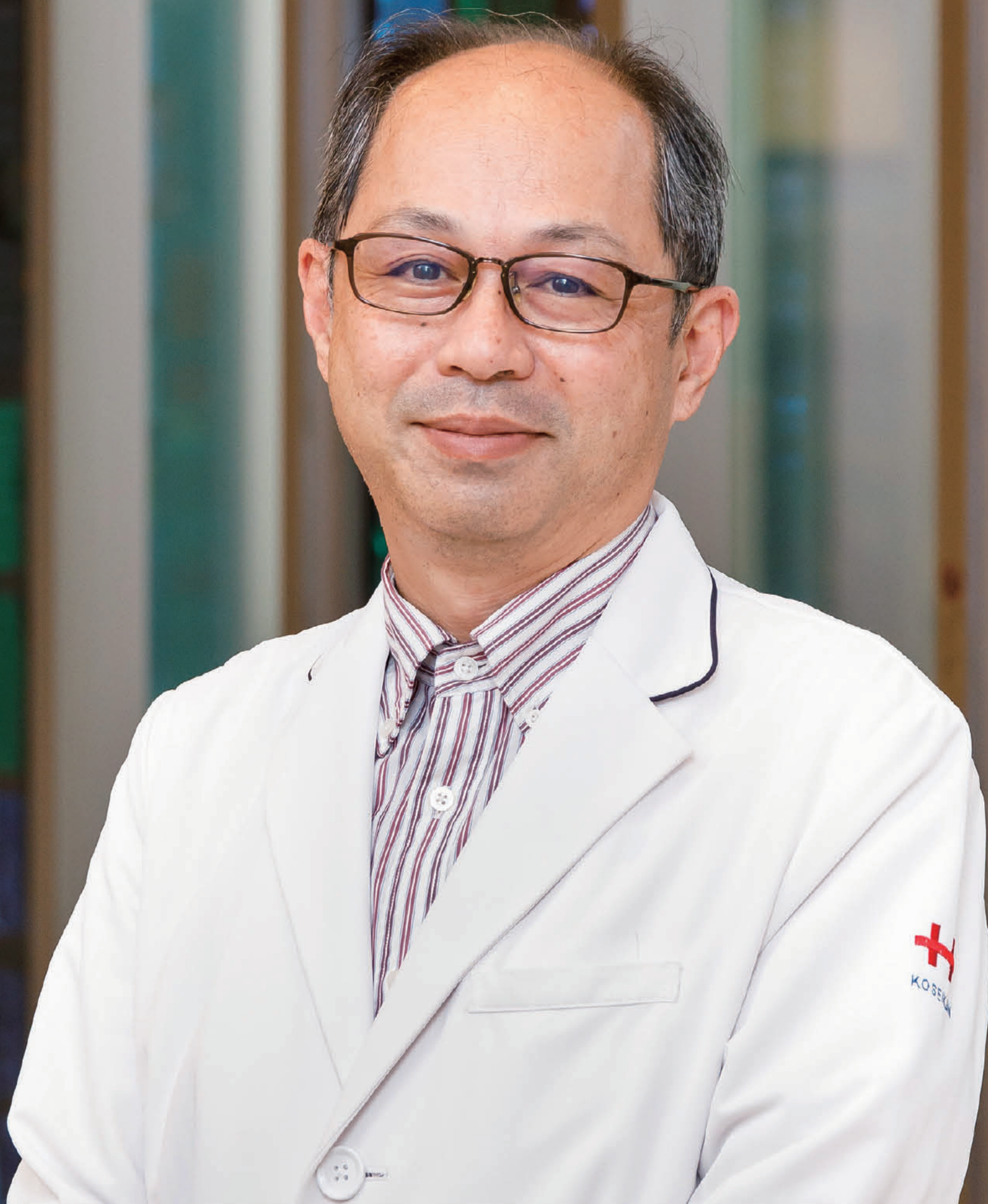


佐賀県医療センター 好生館  
婦人科部長

やすなが まき お  
安永 牧生さん

日本産婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本臨床細胞学会  
専門医・指導医／母体保護法指定医／日本産婦人科内視鏡学会  
腹腔鏡技術認定医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法  
[専門]コースインストラクター



p2

↑ 特集インタビュー

佐賀県医療センター好生館 婦人科部長  
安永 牧生さん

p4

男女共同参画センター

令和2年度 政治参画セミナー「パリテ(50/50)議会をめざして」

p5

男女共同参画センター

・令和2年度「男女共同参画週間記念フォーラム」のお知らせ  
・3月8日は「国際女性デー」です

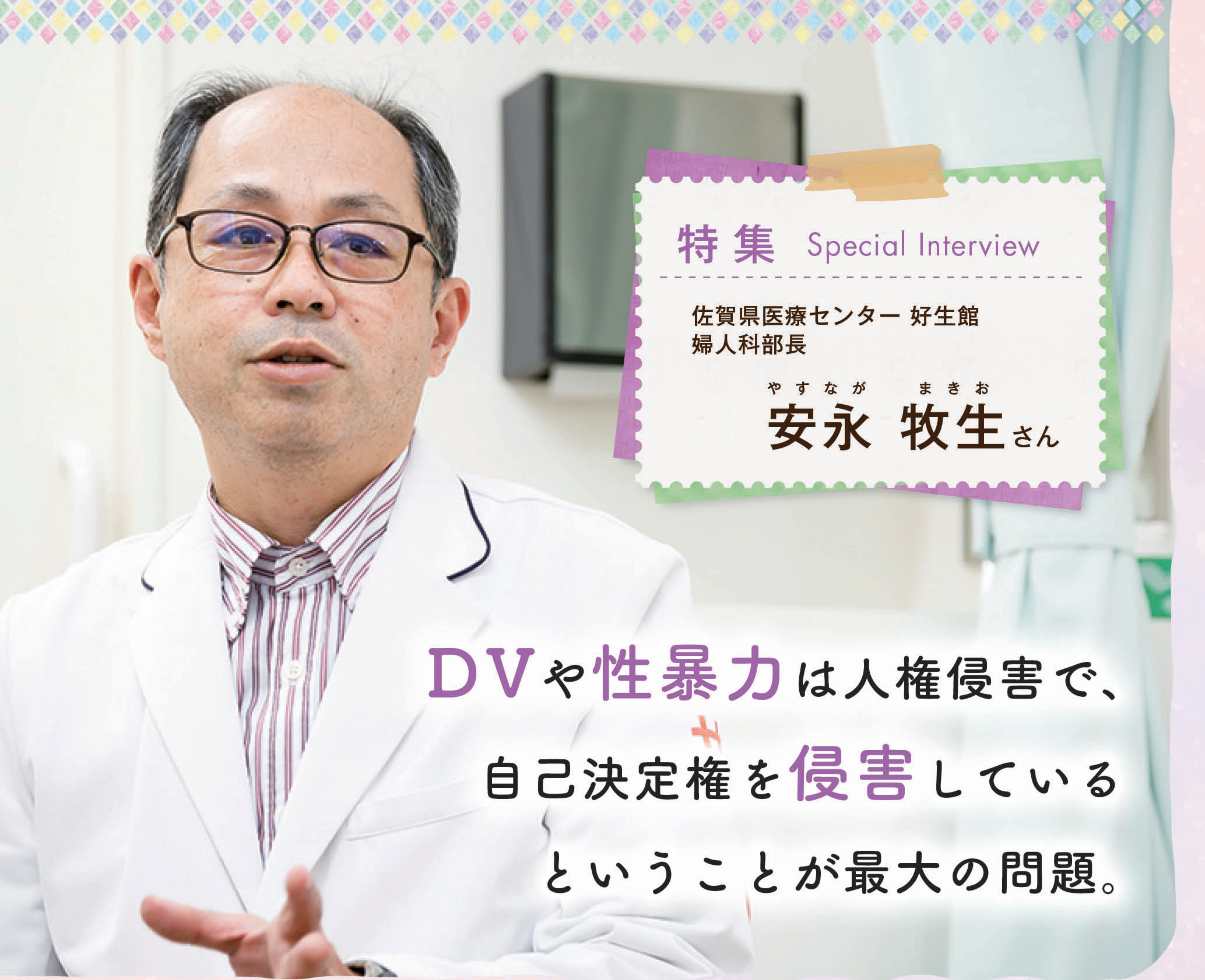
p6

生涯学習センター

新しいまなびのカタチ

p8

・16ミリフィルムをDVDにしました  
・市町巡回相談のお知らせ



## 特集 Special Interview

佐賀県医療センター 好生館  
婦人科部長

やすなが まきお  
安永 牧生さん

DVや性暴力は人権侵害で、  
自己決定権を侵害している  
ということが最大の問題。

政府は、性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすとして、今年度から令和4年度までの3年間で、性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」に定め、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を取りまとめました。その方針の一つに、ワンストップ支援センターにつながるための体制の強化があげられており、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(全国共通番号) #8891 (はやくワンストップ)が導入されました。佐賀県内からその番号に電話をすると、性暴力救援センター・さが(さがmirai)に繋がるようになっています。

今回は、さがmiraiで婦人科の診療を通して性暴力被害者に寄り添っていらっしゃる安永牧生先生にお話を伺いました。



安永先生が勤務されている佐賀県医療センター好生館では、佐賀県が行っている性暴力被害者支援事業『性暴力救援センター・さが(さがmirai)』の拠点病院として、相談から医療支援までをワンストップで行っていますが、被害者の方へ支援をされる中で、特に気を付けていることはありますか。

さがmiraiの理念である被害者の匿名性を大切にしています。性被害を相談しにくい理由として、誰かに知られてしまうのではないかと心配があると思いますが、この事業では匿名性を確保しているというところが、大事なポイントになっていると思っています。受診の際は、なるべく人がいない時間帯に、何のために受診したのか分からないように配慮をしています。

## 被害者の方からの相談事案について最近の傾向があれば教えてください。

社会の流れで申し出る構図も変わってきているのではないかと感じています。この事業を開始した当初は、学校で起こる性非行が主でしたが、最近では、SNSを通して知り合った人からの被害であったり、職場の人等からの性被害等が増えてきたように思いますね。例えば、今までは、職場の人とお酒を飲んで帰る途中で抱きつかれたり、胸を触られたり、キスをされたりといった性被害にあっても黙っている人が多かったんじゃないかと思うんですよ。まず、恥ずかしくて誰にも知られたくないし、お酒も入っていたし、ある程度までは仕方がないと思って泣き寝入りする人が多かったのではないかと思います。MeToo運動やフラワーデモ等があって、こういうことはいけない事なんだと世間に認識されたことで、申し出る人が増えたんじゃないかと思っています。してはいけないんだということを一般的に広めていくことが大切だと思いますよ。申し出やすくすることは、そういう事かなと思いますね。



## コロナウイルスの影響で外に出かけることができず家の中で遊んでいることが多いためか、中・高生の性暴力被害が増えているような報道がありますが、佐賀県ではどうですか？

佐賀県は、減っているのではないかと思いますね。出歩かないので、そのぶん出会いもないんじゃないですかね。だから、中・高生だけでなく、全体的な件数も減っているんじゃないでしょうか。

## 今後の佐賀県での性暴力被害者支援についてアドバイス等をいただけますか。

警察との連携はもう少し深めていければいいのかなと思います。でも、昔に比べたらだいぶ連携できるようになってきたので、警察からの相談も増えてきているように思います。他には、啓発活動をもっと頑張ってもらいたいですね。今、デートDVについては予防教育を実施されていますが、それとセットで、性暴力についても啓発していければいいのかもしれないですね。一般の方向けの啓発が少ない印象なので、男女共同参画センターとして、女性の生涯を通しての困りごと、例えば、思春期、成熟期、更年期、高齢期等に分けて、その年代毎にテーマを設けて講演会やフォーラム等を行うというのはいかがでしょうか。それと同時に各年代に合わせたDVやデートDV、性暴力についても啓発していくといいかもしれないと思います。女性の一生は、どんどん変わってきていると思うんですよ。妊娠・出産や少子化の問題もかかわってくると思うし、働き方もあるし、女性の一生を考える一連の流れの中で、DVや性暴力の話も織り交ぜながら、年間を通して様々な形で啓発していければいいんじゃないかと思いますがいかがでしょうか。

## 性暴力被害者の方がもっと相談しやすくするにはどうすればいいと思われますか。

例えばデートDV等もだいぶ広まってきましたよね。あんな感じで、これはいけない事なんだということを認識して初めて、「これはいけない事だよね」と言ってくれる人が出てくる。どうやって上手に広めていくかが大事だと思いますよ。だから、予防教育は非常に大事だと思います。DVや性暴力は人権侵害で、自己決定権を侵害しているということが最大の問題です。そういう知識があると、色々なことが見えやすくなる。自分勝手に相手のことを振り回すというのはいけない事だということをみんなが知っているということがポイントで、そういう知識が無ければ、自分が被害に遭っていることも、また、相手のことを考えずに、自分の気持ちだけで行った行為によって加害者になってしまったということにもなりかねないんですよ。だから、そういう教育を受けて知識を身に付けておくということは、とても大切なことだと思います。

## 2017年に刑法が改正されて、女性以外も被害者と認定され、佐賀県でも15歳未満の男性を、さがmiraiの支援対象としました。今後は、LGBTsの方々の支援についても考えていかなければならないと思いますが、どのようにと思われますか。

非常に難しいですよ。佐賀県では、まだ具体的事例はありませんが、県内のLGBTsの方々は、まだ少し陰に隠れて暮らしているんじゃないでしょうか。これから先、そういった方々についての支援も増えてくるのかもしれませんが、そうすると精神科の支援をもっと増やしてほしいですね。だけど、全国的に性を扱う精神科の先生が少ないという現状があるのではないかと思います。これも、これからの課題ですね。



# パリティ(50/50)議会をめざして 暮らしの中で女性の政治参画を考える

政治分野(政策・方針決定過程)における男女共同参画を進めることを目的に、  
セミナーを開催しました。



①10/31  
(土)

13:30~15:30

## 講義 「パリティ(50/50)議会をめざして」

とみなが けいこ  
講師 富永 桂子さん(福岡大学 非常勤講師/福岡・女性議員を増やす会 代表)



新型コロナウイルスに対し、世界ではドイツのメルケル首相をはじめ女性リーダーが実力を発揮していることや、国内でも女性議員が多い自治体を例に、女性の政治参画の必要性についてお話いただきました。女性議員が増えると政策の優先順位が変わり、ハード面に加えソフト面が重視され、これまで以上に自治体の政策課題を広くカバーでき、議会の多様化・活性化につながっているとのことでした。

福岡の政治スクールでの取り組みや国内外の調査結果をもとに、日本版パリティ法:「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」を実効性のあるものにしていくための取り組みについても紹介いただき、参加者が考える機会となりました。

②11/14  
(土)

13:30~15:30

## パネルトーク 「暮らしの中で女性の政治参画を語る」

ひらの  
パネリスト 平野 みどりさん(元熊本県議会議員)

やまかわ みゆき  
山川 美幸さん(「パリティ・ウェブ・フロム福岡」編集長)

とみなが けいこ  
コーディネーター 富永 桂子さん



平野さんには、熊本県議会議員になったきっかけをはじめ、ご自身も障害をお持ちであることから、合理的配慮に目を向け、女性や障害者、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援など常に市民団体と連携し、議員活動されてきたことを中心にご紹介いただきました。

山川さんには、ご自身が編集長を務められているフリーペーパーの創刊のきっかけや深い思い、多くの人に手に取ってもらうための誌面の工夫などをお話いただきました。

お二人の話からは、議会で多様性を反映させる大切さや政治に関心を持つ人を増やしていく方法など、これから私たちが暮らしの中で政治について考えるヒントをいただきました。



パネルトークの様子



参加者から質問がたくさん!



上から順に、平野みどりさん、山川美幸さん、富永桂子さん

オプション  
12/4  
(金)

11:00~12:00



## 佐賀市議会傍聴

①10/31と②11/14の参加者の中から希望者を募り、佐賀市議会11月定例会 本会議 一般質問を傍聴しました。災害時の避難所運営や小・中学校におけるフッ化物流口、学校給食の改善など女性ならではの視点での質疑も繰り広げられていました。

### 参加者の声 (抜粋)

- 現状や問題など諸外国との比較など分かりやすく、課題が何なのかよく分かりました。
- 女性でなければ気づくことのなかった質問、確かにそうだと思います。第三極から政治にかかわりたいというお話も面白いと思いました。
- 「議会は多様性の反映であるべき」と、あらためて思いました。

〈会場〉 アバンセ4階 第3研修室  
〈主催〉 佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ) 佐賀市 NPO法人女性参画研究会・さが

令和2年度

男女共同参画週間記念フォーラムの  
お知らせ「男女共同参画週間記念フォーラム」を、2月に開催します  
(※男女共同参画週間は、毎年6/23～6/29です)

日時 令和3年2月11日 祝・🌸 13:30～16:00(開場13:00)

会場 アバンセ ホール  
(オンラインでの受講も可能です。申込締切2月4日(木) 詳細はアバンセホームページをご覧ください。)

定員 会場100名(定員になり次第締め切り) 対象 どなたでも

参加無料  
要事前申込

## 第1部 講演

## 「オリンピックの見方が変わる!なりたいたい自分になる生き方」

やまぐち かおり

講師 山口 香さん

(筑波大学体育系教授、ソウルオリンピック柔道銅メダリスト、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)理事)

※山口香さんはオンラインにより登壇



## 第2部 パネルディスカッション

## 「未来へつなげよう! みんなが挑戦できる社会をつくる」

性別にかかわらず全ての人が能力を発揮できる社会のあり方について考えます。

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、  
プログラム内容の変更や、開催が中止になる場合があります。  
詳細は、アバンセホームページ等でご確認ください。詳しくは、佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)  
TEL:0952-26-0011までお問い合わせください。

3月8日は

国際女性デーです



毎年3月8日は、女性の権利と世界平和をめざす「国際女性デー」として、世界各国で記念行事や催しが開催されています。「国際女性デー」は、女性の政治的、経済的分野へのさらなる参加を目的に、1975年に国連で定められました。

「国際女性デー」は、20世紀初頭に北アメリカとヨーロッパ各地で行われた女性による労働運動が起源とされています。その後、1910年にコペンハーゲンで行われた国際社会主義会議で「女性の政治的自由と平等のために戦う」記念日が提唱され、「国際女性デー」の存在が徐々に世界中へ広がっていくこととなりました。

※各国の男女格差を示す指標のこと。世界経済フォーラムが毎年公表しているもので、経済活動や政治への参画度、教育水準、出生率や健康寿命などから算出される。

こうした動きを受けて国連は、1975年の国際婦人年に、3月8日を「国際女性デー(国際女性の日)」として定め、1977年に国連総会で正式に決議されました。ちなみに、記念日の3月8日は、初めてアメリカで女性労働者が婦人参政権を求めてデモを起こした日です。

「国際女性デー」は、これまでの前進を振り返り、変革を呼びかけ、国や社会の歴史上すばらしい役割を果たした一般の女性たちの勇気と決断を称える日です。

この機会に、ジェンダーギャップ指数\*が低迷する日本において、ジェンダー平等の実現に向けて、私たち一人ひとりに何ができるのかを考えてみませんか。





## 生涯学習関係職員実践講座

**県** 内の生涯学習・社会教育関係課や公民館等の職員を対象としたこの講座では、学びを止めないためにもコロナ禍の中どうしたら講座が開催できるのかを暗中模索しました。

6月、人と人との距離が保てるようホールで講座を開催しました。フェイスシールドを手元にある材料で手作りし、本番に臨んだところ、他の市町から「自分のところでも真似したい」と好評を得ました。グループワークもホールの客席でどうしたらできるのか熟考し、話さなくてもいいようにボードを使ったワークで受講者の交流を図りました。

8月にはZoomを使ったオンライン講座を開催。事前に調査をした結果、まだネット環境が十分整備されていない市町や公民館等があることがわかりました。まずは講座を主催する人へオンライン講座を知ってもらうことを目的に、講座を実施しました。

公民館等に集まって学ぶことが難しい中、Zoomの使い方やどのように学びとつながりを育むかについて、ブレイクアウトセッション(オンライン上のグループワーク)で語り合いました。



①手作りのフェイスシールド。②ボードを使った、アイスブレイクの「伝言ゲーム」や質問を投げかけ答えてもらい、みんなで共有。③受講者は間隔を空けて受講してもらったため、2つの研修室を使用。④ブレイクアウトセッションでは、アバンセ会場以外の受講者とも会話。⑤講師：草場聡宏さん(西九州大学子ども学部准教授)は、別室で講義。

# 新 | し | い | ま | な | び | の | カ | タ | チ

with コロナの中で、私たちはどんな**学び**を提供できるのだろうか？



## 県民講師基本とスキルアップ講座

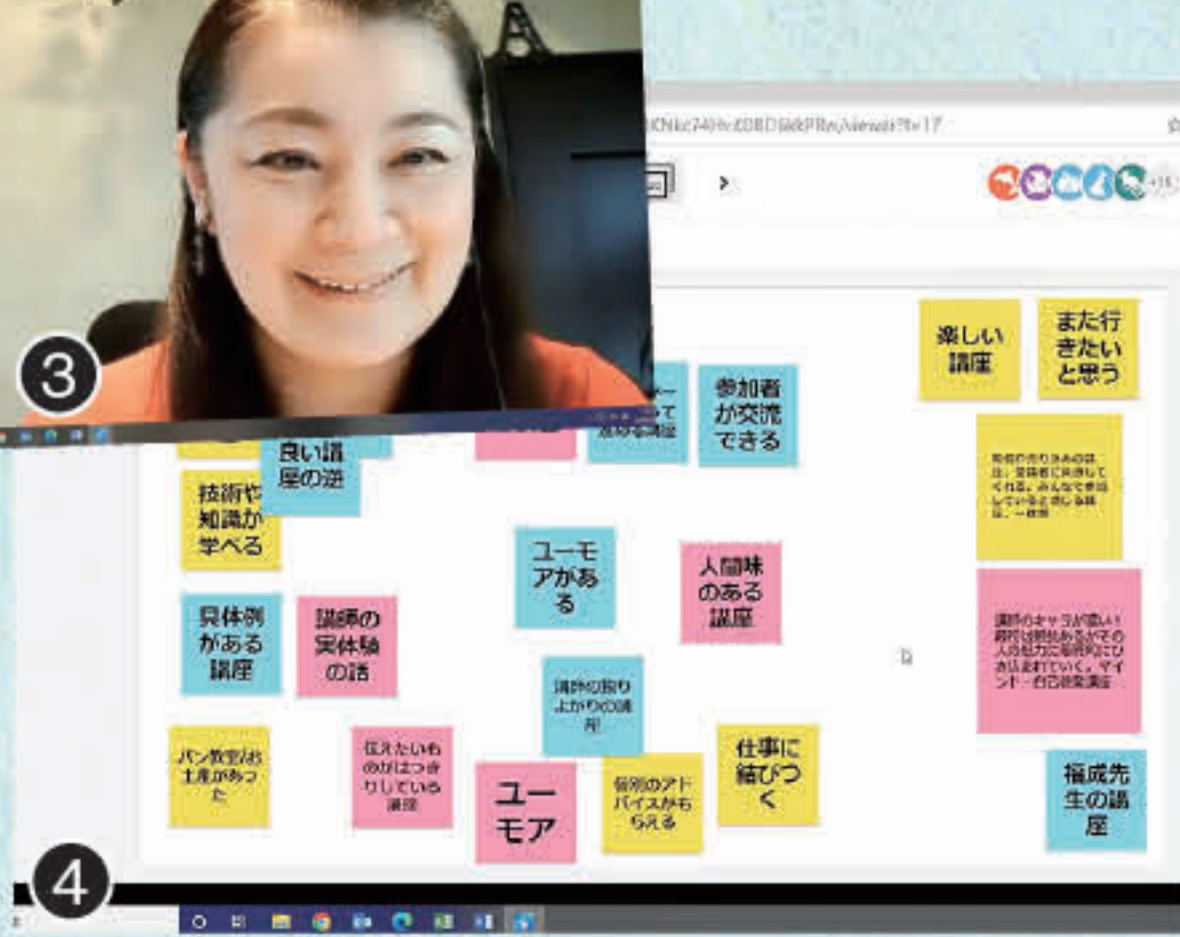
## 新しい景色ひろがる講師デビュー6ステップ

**講** 師として必要な知識やスキルを学ぶ6回連続講座「県民講師基本とスキルアップ講座」。今年度は1、3、5回目をZoom、2、4、6回目をアバンセ会場で、オンラインとリアル(対面)を交互に組み合わせた「ハイブリット形式」で行いました。

コロナ禍でも、参加者同士に対話や交流が生まれるよう、オンラインではブレイクアウトルームやジャムボードを、会場ではパーテーションを用いてグループワークや付箋ワークを行い、お互いにコミュニケーションを取れるよう工夫をしました。

その結果オンラインでは、全員が1つの画面に顔を揃え、声を掛け合い、まるで温かい1つのチームのような一体感が芽生えました。そしてリアルで会った時にも、自然と会話が盛り上がるという効果も見られました。

講座が終わった今も、参加者同士の交流は続いています。新しいコミュニケーション、つながり方、交流の生み方を発見した講座となりました。



①すっかり打ち解けた講師と参加者のみなさん。オンラインにも慣れた様子。②第4回のゲスト講師：北村朱里さん③メイン講師：福成有美さん④グループに分かれてジャムボードを使った付箋ワーク。⑤パーテーションを挟んでのワーク。

アバンセ会場

## つながる NEWまなびいチャレンジ!

### 10/11日

#### まなびいフェスタ



① 3密回避のよびかけ。② 受付で検温し「検温シール」をべたり。③ 手の消毒も楽しく、④ 紙テープを切って、人と人との距離の2mを実感。⑤ わくわく2m魚つりゲーム。⑥ ワークショップのブースにも、消毒液とパーテーションを設置。⑦ どん<sup>3</sup>の森で北陵高校のバルーン部の協力のもと、バルーン体験。⑧ 防災キャンプで、ロープワークの使い方を学ぶ。



**県** 内各地でのイベントが中止される中、新しい生活様式を取り入れ、来場者が密にならないよう、出展ブースの適切な数やワークショップの会場づくりに工夫を凝らして開催しました。

5人の実行委員は「こんな時だからこそ、withコロナを学び、楽しみながら、一緒にできることを探してみよう!」と何度も企画会議を重ねました。

その結果、人と人との間の距離を意識したゲーム、防災に関するクイズやブース、コロナ疲れした心がほっこりする癒しの講座など、来場者と共に「新しい発見と学び、そしてチャレンジ!」ができる場となりました。

また、来場者はすでに新しい生活様式が浸透しているのか、マスク、検温、消毒、人と人との間の距離、受付名簿への記入、待ち時間に対する理解など、とても協力的でスムーズにイベントが進行しました。

アンケートでも「コロナ対策が充分に行われていて、安心して一日楽しめた」などの声が聞かれ、来場者が安心して楽しめたフェスタとなりました。

どん<sup>3</sup>の森

2020年、突然降って沸いた新型コロナウイルス。

緊急事態宣言により、アバンセも4月21日(火)～5月10日(日)までは休館を余儀なくされました。

人と人が顔を合わせ、一緒に学び、交流し、つながることを目的としてきた私たちの事業は、根本から覆される状況となりました。新しい生活様式が提案され、withコロナの中で何ができるのか?を模索し、奮闘した1年。その一部を誌上で紹介します。

## アートとエンターテインメントの新しい可能性

#### 県民カレッジの集い

### 11/8日



① 講師: 富吉賢太郎さん(佐賀清和学園理事長、元佐賀新聞論説委員長) ② 重松恵梨子さん(シアターシエマ支配人) ③ 富永ボンドさん(現代芸術家) ④ 北原香菜子さん(薩摩琵琶奏者) ⑤ 青柳達也さん(演劇家) ⑥ 登壇者席にも、飛沫予防のパーテーションを設置。⑦ 入り口で、検温、消毒、マスク着用のチェック。⑧ カメラで撮影し、同時にYouTubeでもオンライン配信。⑨ 座席も間隔を空けて配置。



**県** ロナ禍により、佐賀県の芸術や文化活動も影響を大きく受け、活動の停止や自粛を余儀なくされました。

この講座では、第1部で富吉さんに「さかの現代文化を楽しむ」と題して、新聞記者時代のエピソードを交えながら、人間性の高まりと文化活動の関わりを語っていただきました。また、第2部のトークセッションでは、県内で芸術や文化活動をしている若手の4人に、コロナ禍での活動の現状と、withコロナの中で新しく試みた活動を紹介していただきました。

ミニシアターの支配人の重松さんは「映画監督とのトークショー」をアーカイブ映像で配信、現代芸術家の富永さんは、最新の技術を駆使した次世代VR個展をオンラインで開催、原画やグッズをネット販売し新しい活路を見出されました。薩摩琵琶演奏家の北原さんは、室内がダメならと野外での演奏に乗り出し、演劇家の青柳さんは、観客参加型のオンライン演劇にチャレンジするなど、それぞれが知恵を絞り新しい可能性を信じて活動されている姿に、佐賀県の芸術や文化活動の火を絶やしたくないという心意気を感じました。

# 16ミリフィルムをDVDにしました

佐賀県視聴覚ライブラリーでは、所蔵している貴重な16ミリフィルム映像をDVD化する事業を行っています。制作したDVDはアバンセ4階、佐賀県視聴覚ライブラリーで団体向けに貸出中です。ぜひ、ご視聴ください。

佐賀県の  
なつかしい映像  
(2019年度DVD化)

## ムツゴロウと こどもたち(モノクロ)

ムツゴロウを捕り、  
たくましく生活している  
子どもたちの映像  
(昭和41年)

## 日本発見シリーズ 佐賀県(モノクロ)

有田焼、農業、  
有明海干拓などの  
佐賀県の紹介映像  
(昭和36年)

## 若楠国体 (カラー)

若楠国体に集まる  
選手や開会式の様子を  
収録した映像  
(昭和51年)

## がんばる群像 (カラー)

昭和51年の第12回  
障害者スポーツ大会に  
向けて練習する選手や  
スタッフの様子を収録

## 有明海の干拓 (モノクロ)

佐賀の四季と合わせて  
干拓事業の工事の様子が  
うかがえる映像  
(不明)

## 天皇皇后両陛下 佐賀の御旅(カラー)

昭和36年の  
昭和天皇皇后両陛下の  
佐賀県ご視察を  
記録した映像

お問  
い  
合  
わ  
せ

佐賀県視聴覚ライブラリー  
TEL 0952-23-3522 E-mail shichokaku@avance.or.jp



## 「女性のための市町巡回相談」のご案内

アバンセの女性総合相談員を下記の市町に派遣しています。是非ご利用ください。

相談時間 10:00～16:00(玄海町のみ 10:30～15:15)

会場	2月	3月	会場	2月	3月
吉野ヶ里町東脊振庁舎	4日(木)	4日(木)	上峰町役場	26日(金)	26日(金)
玄海町役場 (相談時間 10:30～15:15)	24日(水)	24日(水)	大町町総合福祉保健センター (美郷)	3日(水)	3日(水)
江北町役場	25日(木)	11日(木)	白石町役場	12日(金)	12日(金)
太良町総合福祉保健センター (しおさい館)	19日(金)	19日(金)	※相談日が変更になることもあります。 詳しくは各市町へお問合せください。		

## ACCESS



**P** アバンセ南出入口に屋根付身障者用駐車場(5台分)があります。

- JR佐賀駅から徒歩約10分
- 駐車場に限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。
- 開館時間：火～土 8:30～22:00  
日・祝 8:30～17:00  
休館日：毎週月曜日  
12月29日～1月3日
- QRコードにより、施設の予約状況を検索できるようになりました。是非ご利用ください。

アバンセ施設予約状況

検索

QRコードはこちら



## アバンセNOW

Vol.104 2021.2月号

- 発行・企画 / 佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター(アバンセ)  
〒840-0815 佐賀市天神三丁目2-11 TEL 0952-26-0011 FAX 0952-25-5591  
E-mail daihyo@avance.or.jp URL http://www.avance.or.jp/
- 編集・印刷 / 株式会社 三光 伊万里市大坪町乙4161-1 TEL0955-23-5808